

平成 27 年度（第 59 回）

岩手県教育研究発表会発表資料

17 「いきる・かかわる・そなえる」分科会

児童の主体性を育て、実践力を高める指導はどうあればよいか

～「いわての復興教育」における副読本の効果的な活用を通して～



平成 28 年 2 月 10 日（水）

雫石町教育委員会

雫石町立安庭小学校

梶 本 隆 行



目 次



I 研究計画

1	研究主題	2
2	主題設定の理由	2
3	研究目標	3
4	研究仮説	3
5	研究内容	3
6	研究方法	3
7	研究全体構想図	4

II 研究の基本的な考え方

1	児童の実態と本校復興教育の方向性について	5
2	児童の主体性を育て、実践力を高める指導とは	5
3	本校の復興教育における「防災教育」の位置づけについて	5
4	研究仮説 1 について	5
5	研究仮説 2 について	10

III 研究の実際

1	今年度めざす児童の姿	11
2	実践事例	12
3	その他の実践	23

IV 研究のまとめ

1	研究の成果	25
2	研究の課題	25



I 研究計画

1 研究主題

児童の主体性を育て、実践力を高める指導はどうあればよいか
～「いわての復興教育」における副読本の効果的な活用を通して～

2 主題設定の理由

(1) はじめに

本校では、「いわての復興教育」を積極的に推進するため、平成26年6月に保護者や地域の方々を対象とした授業参観の際に、全学年で復興教育副読本を活用した授業を行った。このことにより、広く保護者や地域の方々に「いわての復興教育」の概要や具体的な取り組みについて理解をいただくことができた。また、学校と家庭、地域が連携して防災に関して取り組んでいくことの大切さを共有することができた。

さらに、平成27年度は、岩手教育委員会より「防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業：モデル校『復興教育副読本の効果的な活用に関する研究』」の指定を受け、1年間研究に取り組むこととなった。

そこで、昨年度の実践を踏まえ、「復興教育副読本」を活用した望ましい授業の在り方について実践を通してその指導方法を明らかにするとともに、行事や体験活動、地域と連携した取り組みとの関連を充実させることにより、たくましく課題に立ち向かい、よりよく主体的に生きていこうとする児童を育成することを目指していくものとする。

(2) 児童の実態から

本校の児童は、素直でよく教師の話を聞き、課題や与えられた仕事に真面目に取り組もうとする。しかし、「自ら課題を見つける、進んで物事に取り組む・挑戦する、自ら考えて行動しようとする」といった面にやや弱さが見受けられる。その理由について、安全・防災教育の視点から考えると、これまで行ってきた避難訓練等は、決められた内容や行動を訓練することに終始して児童の思考や判断を伴う学びになっていなかったことや、「なぜ安全・防災について学ばなければならないか」という必要感を十分に感じさせてこなかったことによるものと考ええる。

そこで、本校では、「いわての復興教育」が教育的価値として掲げている「いきる」「かかわる」「そなえる」の中で、特に防災について実践力を高める「そなえる」の内容を重点として取り組むこととした。

また、「そなえる」の学習内容は「いきる」「かかわる」と大きく関わっており、単元にそ

れぞれ意図的に位置付けることによって、3つの教育的価値に効果的に触れることができると考える。

(3) 「いわての復興教育」における防災教育について

「いわての復興教育副読本」における「そなえる」編の構成は、自然災害発生メカニズムを扱う知識の分野と災害発生時に身を守り、生き抜くための技能の分野からなっている。

そこで、「いわて復興教育副読本」を活用して「知識」「訓練」「活動」が結びつくカリキュラムづくりを行い、児童に的確な思考と判断、適切な意思決定・行動選択を行わせることで主体的に身を守る実践力を育てていきたい。

3 研究目標

本県「復興教育」の目指す「復興・発展を支える人づくり」を踏まえ、主に防災教育に関して「復興教育副読本」の効果的な活用を通して、児童の主体性を育て実践力を高める指導の在り方を明らかにする。

4 研究仮説

「いわての復興教育」において、副読本を次のように活用すれば、児童の主体性と実践力が育つであろう。

- (1) 「いわての復興教育」の学習において、児童が学びの動機をもち、学ぶ方法を理解して学習に望めるようにするため、年間指導計画に教育的価値「いきる」「かかわる」「そなえる」の具体項目を意図的に配置し、その学習に副読本を効果的に活用していく。
- (2) 「そなえる」の学習に児童が「思考」「判断」「表現」する場面を位置づけていく。

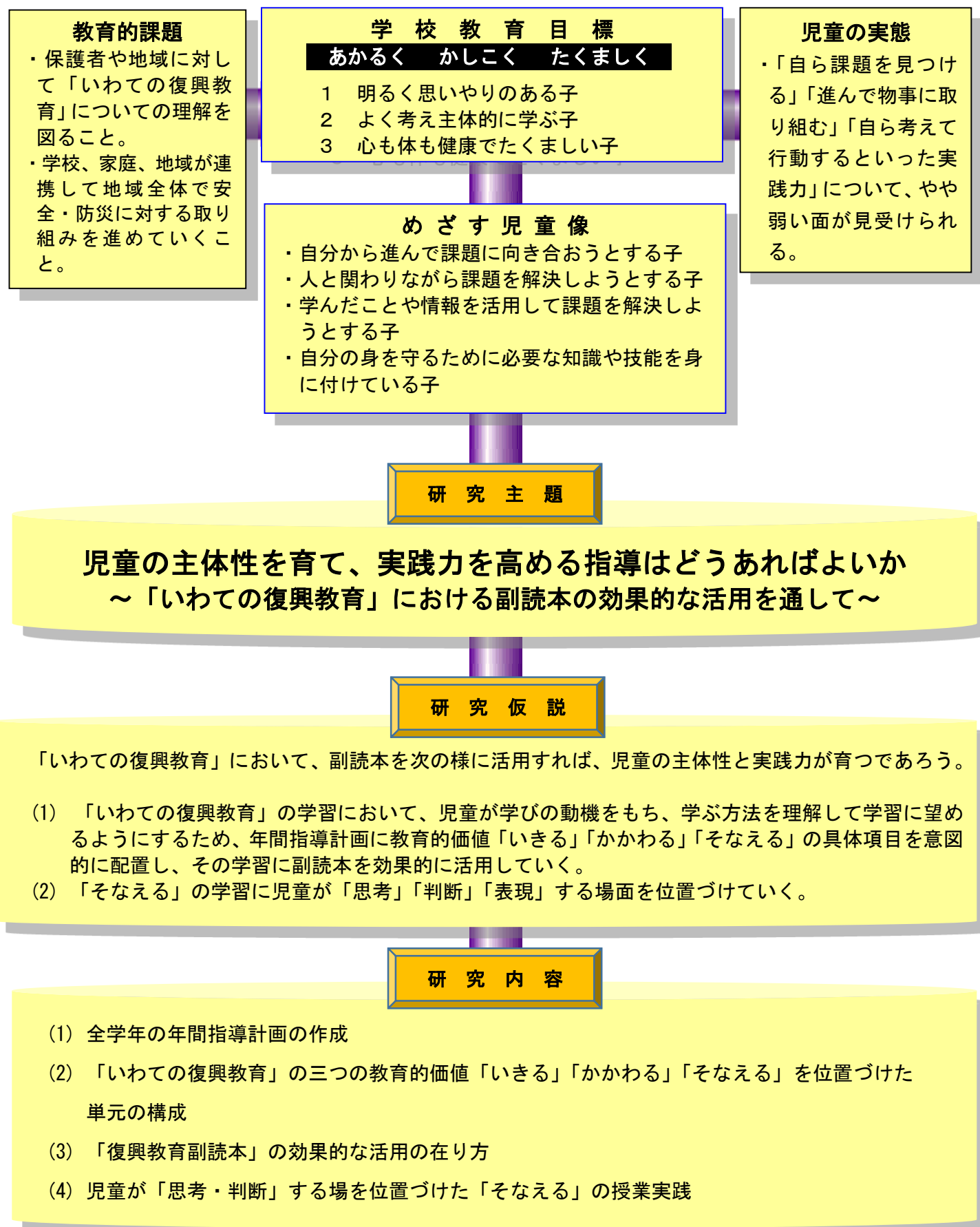
5 研究内容

- (1) 全学年の年間指導計画の作成
- (2) 「いわての復興教育」の三つの教育的価値「いきる」「かかわる」「そなえる」を位置づけた単元の構成
- (3) 「復興教育副読本」の効果的な活用の在り方
- (4) 児童が「思考・判断」する場を位置づけた「そなえる」の授業実践

6 研究方法

- (1) 実践研究 …………… 授業実践、授業研究会、日常実践
- (2) 理論研究 …………… 文献、先行研究、講師招聘
- (3) 先進校視察 …………… 先進校への視察（東京都日野市立平山小学校）

7 研究全体構想図



Ⅱ 研究の基本的な考え方

1 児童の実態と本校復興教育の方向性について

本校は、全校児童数が80名の学校で、各学年1クラスの他に情緒と難聴の学級を有している。児童はとても素直で、何事も真面目に取り組み、様々な分野で成果を上げている。また、家庭や地域からも大切に見守られ、安定した生活を送っている。しかし、与えられた機会や課題をこなすことはできても、自らの課題や問題点を見つけたり、自らの動機で「自分ごと」として物事に取り組もうとしたりする積極的な姿勢にやや欠ける面が見受けられる。

また、本校では、豊かな人間性を育むため、「人・もの・こと」との関わりを前提とした体験的活動を多く含む教育活動を継続して展開している。以上のことから、本校の復興教育を進めるにあたり、本校児童の課題や今までの教育活動を整理し、系統性を図っていくことが大切であると考えた。

2 児童の主体性を育て、実践力を高める指導とは

児童の主体性を育てることによりめざす児童の姿

- 自分から進んで課題に向かおうとする子
- 「ひと・もの・こと」とかかわりながら解決しようとする子

実践力を高めることによりめざす児童の姿

- 自分の身を守るために必要な知識や技能を身に付けている子
- 自分で情報を把握し、判断できる子

3 本校の復興教育における「防災教育」の位置づけについて

「いわての復興教育」は、災害からの立ち直りと今後の備えといったわくをこえ、【郷土を愛し、その復興・発展を支える人材を育成する】ことがねらいである。

したがって、被害が少ない内陸部にあっても「児童が自らの在り方を考え、これからの社会をつくることができるようにする」という意義はとても重要であり、すべての教育活動の根幹と捉えることができる。

また、地震や津波のほかに今後起こり得る災害への備えから、「防災教育」の充実が求められている。そこで、発達段階に応じて実践力としての防災力を児童に身に付けさせていくことが必要であり、そのために、すべての教育活動の中に計画的に防災教育を位置づけて取り組んでいくことが大切であると考ええる。

以上のことから、本校の復興教育では、防災に関わる「そなえる」について、特に取り上げて取り組むこととした。

4 研究仮説1について

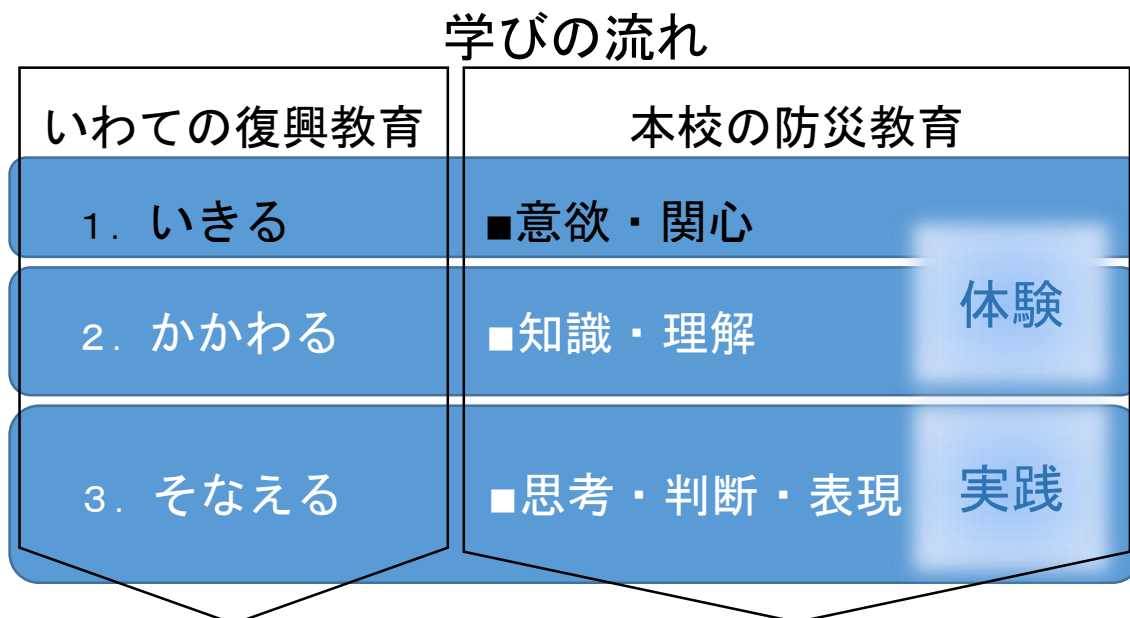
研究仮説1

「いわての復興教育」の学習において、児童が学びの動機をもち、学ぶ方法を理解して学習に望めるようにするため、年間指導計画に教育的価値「いきる」「かかわる」「そなえる」の具体的項目を意図的に配置し、その学習に副読本を効果的に活用していく。

(1) 学びの流れについて

文部科学省『「生きる力」を育む防災教育のねらいと展開例』をもとに、主体性と実践力を身に付けた子どもを育成するための本校の防災教育の「学びの流れ」を次のように考えた。

何よりも児童が意欲をもち、体験活動や教科等の学習で得た知識・理解をもとに思考・判断・表現するという学びの順序こそが大切であると考え。



参考資料：学校防災のための参考資料「生きる力」を育む防災教育（文部科学省）

また、復興教育の「いきる」の価値項目は、意欲・関心をもたせ、動機づけする過程に位置づけ、「かかわる」の価値項目は、体験や知識・理解の過程に位置づけていく。ねらいに迫る「そなえる」の価値項目は、実践力を高める過程に位置づけていくこととした。

(2) 「いきる」「かかわる」「そなえる」3つの教育的価値の位置づけについて

【いきる】の教育的価値では、震災津波の経験を踏まえた「生命の大切さ」や「心のあり方」などの学習を通して、復興教育への意欲・関心をもたせる場と考える。復興に向けて力強く立ち上がっている方々の姿や、自分の地域の災害についての実状に触れることで、必要感・切実感をもって学習に臨む構えが構築される。意欲や関心をもって関わることで、以降の復興教育の学習活動の基盤となるため、自ら問題を見出し、問題意識を醸成するように意図的な活動を仕組んでいく。

【かかわる】の教育的価値では、震災津波の経験を踏まえた「人の絆の大切さ」や「地域づくり」などの学習を通して、気付きを促し意識を深める場と考える。親子のつながりや家族の絆、地域の人々と助け合うことの大切さを実感することで、家族の幸せや地域活動に積極的に行動するようになる。自分から進んで実践しようとする心情を育てることは、「いわての復興教育」の目的である「郷土を愛し、その復興・発展を支える人材」の育成や本校の研究主題である「児童の主体性を育てる」指導の在り方に直結するものである。

【そなえる】の教育的価値では、震災津波の経験を踏まえた「自然災害の理解」や「防災や安全」などの学習を通して、実践力を育成する場と考える。災害に対する備えについて考えた

り、危機を予測したり避難行動を考えたりすることにより、実践力が身に付くと考える。

本校の復興教育が目指すのは、防災・安全にかかわる実践力を身に付けさせることであり、教育的価値「そなえる」の内容を中心として取り組んでいく。

（３）指導計画の組み立てについて

指導計画の組み立てについては、はじめの段階の「いきる」を主に行事や道徳と関わらせながら学びの動機や意欲・関心をもたせる。次に「かかわる」の段階では、教科や総合的な学習の時間で、体験させたり知識や理解を深めたりする。最後の「そなえる」の段階では、主に特別活動や総合的な学習の時間を中心に、「思考・判断・表現」する力や実践力を育成する段階とする。さらに、避難訓練などの行事を実践の場として計画した。

防災教育に関わる年間の指導時数は、１・２年生は１５時間程度で、教科や道徳、特別活動と行事を関わらせながら指導計画を作成した。３～６年生は２５時間程度で、教科や道徳、総合的な学習の時間、特別活動と行事を関わらせながら指導計画を作成した。

はじめに、各学年の防災教育の目標を発達段階に応じて設定し、次に、目標に沿って学年ごとに主となる「そなえる」の教育的価値にあたる学習内容を決めた。その学習活動に思考・判断させる場面を設定し、実践力を育てる指導計画の中心とした。そして、各教科の年間指導計画から、具体の２１項目のねらいや知識・理解の内容に合致するものを取り上げ、「そなえる」における思考・判断のもとになるものとして、主に「かかわる」の過程に位置づけた。

また、年間の行事をそれぞれ３つの教育的価値や具体の２１項目と関連させて整理し、計画に盛り込んだ。なお、年間計画の立案にあたっては、各教科・領域等の目標との整合性を確認し、それぞれの学習内容が十分保障されるよう留意した。

（４）復興教育副読本の活用について

副読本の活用については、次のような方法を考え、柔軟に活用した。

- 副読本の記述や資料をそのまま活用する。
- 副読本の記述や資料の一部を活用する。
- 副読本の記述や資料の内容を必要に応じて修正、加工し活用する。
- 複数の資料と関連付けて活用する。
- 副読本を参考に、地域やねらいに合わせて新たな教材を作成し活用する。
- 副読本や指導資料の展開を参考に、教育的価値が身につくような活動を行う。
- 防災教育に関連した教科（理科等）の学習に、一部を資料として活用する。

また、月末の朝読書の時間に、全校で復興教育副読本を読む時間を設定した。あわせて、本校では災害や復興に関連する図書を学級文庫に備えており、副読本とともに震災や復興の状況、災害発生のメカニズムなどについて、日常的に関心を高めることができるようにしている。

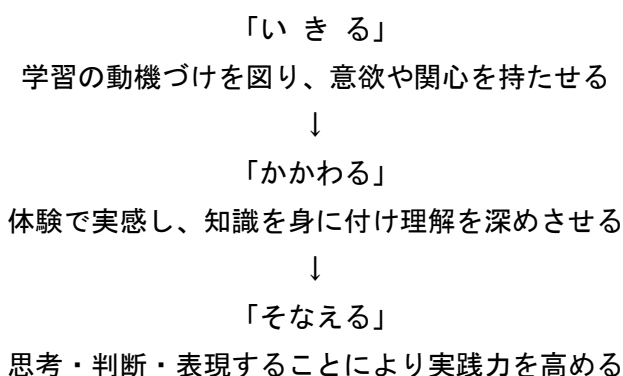
さらに、朝の会や帰りの会で災害や異常気象、被災地復興のニュースなどと関連させて活用するなど、副読本を身近なものとして手元に置き、触れさせるようにした。

(5) 防災教育指導計画の立案

教育的価値「いきる」「かかわる」「そなえる」の具体項目の意図的な配置

ア 今年度、本校の防災教育の目標は、2月に実施する避難訓練の実践の場でめざす児童の姿として設定した。
この目標を目指し、特別活動を中心に各教科・領域、道徳等を関係づけながら指導計画を作成した。

イ 学びの順序は「いきる」「かかわる」「そなえる」の流れを意図して計画する。



ウ 単元全体をひとつの流れとしたり、学習のまとまり毎に3つの価値の流れを繰り返したりするなど、柔軟に構成する。

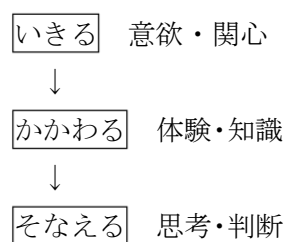
エ 副読本との関連については、資料の目標、特色・背景、学習内容、指導展開が対応するものを全て取り出した。

教科で補助的な教材として活用したり、領域等を中心または補助的な教材として活用したりする。

また、これまでの学習や活動の目標を、副読本の価値を参考に見直し修正するなど、指導計画立案の拠り所とした。

オ 今年度の防災教育は、指導計画を作成しながら進めており、実践の中で修正、改良を加えている。

2月の避難訓練の際の目指す児童の姿を年間の目標とする。



この学びのまとまりを繰り返す。

5年生の防災教育の知識・理解として重要な学習のため、指導計画に記載している。

避難訓練の実践の場を、防災教育の1年間のまとめとする。

1年間の学びをふりかえることにより、次学年の学びの意欲をもたせる。

平成27年度 安庭小学校 第3学年 防災教育 指導計画

防災教育の目標	災害に応じた避難方法を理解し、自ら安全な行動をしている。
単 元 名	自分の命は、自分で守る。
単 元 目 標	【意欲・関心】身の回りの様々な危険の原因に気付いている。
【教育的要素】	【知識・理解・体験】災害について基本的な現象と危険について理解している。 【思考・判断・表現 実践】自分の住む地域の災害時の危険予測と避難の仕方を考えている。

月	時間	価値	指 導 計 画	副 読 本 と の 関 連
			教科・領域等 「単元名・活動テーマ」 【教育的要素】 ○目標	【具体の21項目】 「題材名」
4	1	いきる	総合的な学習の時間 「自分の命は自分で守る」 【意欲・関心】 ○本単元の主な学習内容と目的を考え、進んで行おうとする心情を育てる。	①【かけがえのない生命】 「はるかのひまわりロード」
	1	かかわる	特別活動 「JRC活動」 【知識・理解・体験】 ○青少年赤十字の活動を知り、自分から進んで実践しようとしている。	⑪【ボランティア】 「協力し合うって、楽しい」
	1		特別活動 「室内・学校の安全」 【知識・理解・体験】 ○地震発生時の危険について理解し、身の守り方・避難の仕方を考えている。	⑫【学校・家庭・地域での日頃の備え】 「みんなで、ぼうさい力を高めよう」
5	1	そなえる	特別活動 「避難訓練」 【思考・判断・表現】 ○地震に対する避難方法を理解し、危険回避行動をどうすればよいか考えている。	⑫【身を守り、生き抜くための技能】 「ショートくん練をやってみよう」
6	1	いきる	道徳 「ホタルの引っ越し」 【意欲・関心】 ○自分が暮らしている安庭の人々や自然やよさについて考える。	①【かけがえのない生命】 「生きのこったイトヨ」
7	1		特別活動 「大雨災害 そなえあればうれしいなし」 【意欲・関心】 ○身近に避難が必要な災害が起きていることを知り、防災学習の必要性を感じている。	⑫【学校・家庭・地域での日頃の備え】 「家族で地震にそなえましょう」
	2	かかわる	総合的な学習の時間 「安庭を探索しよう！景観学習」 【知識・理解・体験】 ○景観学習を通して、自分達の住んでいる郷土を愛する心を育てる。	⑭【復旧・復興へのあゆみ】 「津波を乗り越えて一奥尻島」
	1		体育 「着衣水泳」 【知識・理解・体験】 ○服を着た状態で泳ぐ難しさを知り、対応の仕方が分かる。	⑫【学校・家庭・地域での日頃の備え】 「そのとき、どうする？」
	1	そなえる	総合的な学習の時間 「調べたことを発表しよう」 【思考・判断・表現】 ○発表会を行い、今後の学習の発展について話し合う。	⑮【東日本大震災津波の様子と被害の状況】 「東日本大震災」
8	1	いきる	総合的な学習の時間 「しぜんとともに」 【意欲・関心】 ○自然の豊かさと厳しさ、自然と共に生きることについて考える。	②【自然との共存】 「しぜんとともに」
9	1	かかわる	総合的な学習の時間 「安庭地区の防災マップを作ろう」 【知識・理解・体験】 ○自然との共存について考え、自分の身を守ることに必要感をもつ。	⑬【地域づくり】 「防潮堤を見て学ぶ一宮古市田老」
	2	そなえる	総合的な学習の時間 「安庭地区を探検しよう」 【思考・判断・表現】 ○地域を見て回り、危険箇所や危険度を防災マップに書きこむ。	⑫【学校・家庭・地域での日頃の備え】 「みんなで、ぼうさい力を高めよう」
	1		特別活動 「避難訓練」 【思考・判断・表現】 ○地震や火災に対する避難方法を理解し、危険回避行動をどうすればよいか考えている。	⑮【災害時における情報の収集・活用・伝達】 「さん急地震速報」
	1		特別活動 「命を守る！その時あなたはどうしますか」 【思考・判断・表現】 ○安全に避難するにはどう判断したらよいか、主体的に考えている。	⑫【学校・家庭・地域での日頃の備え】 「そのとき、どうする？」
10	1	かかわる	理科 「太陽と地面の様子」 【知識・理解・体験】 ○日なたと日陰の地面の様子を調べ、太陽と地面の関係について考える。	⑮【自然発生のメカニズム】 「急な大雨・かみなり・たつまき」
11	1	そなえる	総合的な学習の時間 「防災のことを伝えよう」 【思考・判断・表現】 ○防災マップを2年生に分かりやすく伝えるにはどうしたらよいか考える。	⑭【復旧・復興へのあゆみ】 「防潮堤を見て学ぶ一宮古市田老町」
	1		総合的な学習の時間 「調べたことをまとめよう」 【思考・判断・表現】 ○発表練習を通して、災害から身を守るためにはどんなことが必要か考えを深める。	⑮【自然災害の歴史】 「岩手の主なさいがい」
	1		総合的な学習の時間 「2年生に伝えよう」 【思考・判断・表現】 ○発表会を行い、感想を交流したり今後の学習について話し合ったりする。	⑬【地域づくり】 「防潮堤を見て学ぶ一宮古市田老」
	1	いきる	道徳 「ばくのおばあちゃん」 【意欲・関心】 ○家族を敬い、家族の一員として家庭を明るくして行こうとする心情を育てる。	③【価値ある自分】 「家族のみんなに よろこんでもらったよ」
1	1	かかわる	特別活動 「三世代交流会・感謝の会」 【知識・理解・体験】 ○家族や地域の人々と交流を通し、感謝の気持ちや協力することの大切さが分かっている。	⑫【自分と地域社会】 「まけないぞうがつながきずな」
	1	そなえる	特別活動 「命を守る！その時あなたはどうしますか2」 【思考・判断・表現】 ○安全に避難するにはどう判断したらよいか主体的に考えている。	⑫【学校・家庭・地域での日頃の備え】 「そのとき、どうする？」
	1		特別活動 「避難訓練」 【実践】 ○災害に応じた避難方法を理解し、自ら安全な行動をしている。	⑮【自然災害のライフラインへの影響】 「ライフラインって何？」
3	1	いきる	総合的な学習の時間 「学習をまとめよう」 【思考・判断・表現】 ○1年間の活動を振り返り、今後の学習の発展について話し合う。	④【夢や希望の大切さ】 「ゆめ先生がつたえたいこと」

5 研究仮説2について

研究仮説2

「そなえる」の学習に児童が「思考」「判断」「表現」する場面を位置づけていく。

(1) 思考力・判断力・表現力の育成について

本校のこれまでの防災教育は、一定の災害から身を守るために必要な行動や備え等を内容的に理解させ、対応について訓練するようなものであった。

しかし、現在の変化の激しい世の中であって、これまで経験のないような規模の自然災害等が起こるなど、与えられた知識を習得することや技能の訓練だけでは対応できない状況にある。そこで、将来にわたってどんな場面に遭遇しても対応できる応用可能な力としての思考力、判断力、表現力を育成していくことが大切であると考えた。

(2) 「思考」「判断」「表現」する活動の位置づけについて

思考・判断させる場面について、個人、グループ、全体といった学習形態について工夫していく。また、表現については、「かかわる」の学習と関連させ、特に相手意識をどのように持たせるかについて配慮していく。

(3) 教科・領域等における「思考」「判断」「表現」との関連について

教科・領域等における「思考」「判断」「表現」について、防災教育の内容や学習活動の特性に合わせて生かすようにする。

- 学んだことを生活とのかかわりの中で整理したり、実感を伴った思考を図ったりする
→「科学的な思考力」
- 事象を比較したり関連付けたりしながら、多面的・総合的にとらえ公正に考える→
「社会的な判断力」
- 言語を使って整理したり分析したりして考え、それをまとめたり表現したりして考えを深める→「総合的な表現力」



Ⅲ 研究 の 実 際

1 今年度めざす児童の姿

今年度は、2月に行う第3回避難訓練での児童の姿を想定し、発達段階に応じた目標を次のとおり設定した。

学年	目 標
1	避難訓練の意義を理解し、周囲の人の指示に従い、安全に行動している。
2	避難訓練の意義を理解し、決まりや約束を守り、安全に行動している。
3	災害に応じた避難方法を理解し、自ら安全な行動をしている。
4	災害に応じた避難方法を理解し、自ら周囲の人と協力して安全な行動をしている。
5	災害に応じた適切な避難方法を身に付け、情報や状況から総合的に判断するとともに、自ら安全な行動をしている。
6	災害に応じた適切な避難方法を身に付け、情報や状況から総合的に判断するとともに、自他の安全を考えて、主体的に行動している。

